子どもサミット新聞

発行・編集
学校教育課学事係
☎43-7112

子どもサミットの思いは大館から被災地へ

昨年の8月1日から5日間、全国の都道府県などから中学生約160人が集まり開催された全国生徒会サミットへの参加をきっかけに、今年度の子どもサミットの活動は市の枠を越え、大館の子どもたちの思いはふるさと大館を拠点として東日本大震災の被災地へとつながっていきました。

出発点となったのは、全国生徒会サミットに市代表として参加した安部大輝さん(第一中3年)と細谷享平さん(第二中3年)の思いでした。

釜石市から戻った2人は、子どもサミット運営委員会で自分たちの思いを伝え、運営委員は被災地のために何ができるかを子どもサミットで話し合うことを決めました。

そして12月の子どもサミットで、安部さんと細谷さんの被災地とつながる提案に、各校のサミット委員からは前向きな意見が次々と出されました。その結果、「今年度はペットボトルキャップ回収運動の報奨品のプランターを釜石市の中学校生徒会に贈り、釜石市の元気づくりに少しでも役立ててもらおう」と決定しました。

3月末には子どもサミット委員の代表15人が釜石市に行き、プランター30台を寄贈する計画です。プランターに咲く花々が、釜石の方々の暮らしに少しでも彩りを添えてほしいという願いが込められています。

【2人の思い】

全国生徒会サミットで『地域のためにできること』を話し合った際、クリーンアップに関する提案がたくさんあり、これまで僕たちがやってきたことは間違いではないと感じました。また、ペットボトルキャップの回収によるベンチの寄贈は、大館市子どもサミット独自の素晴らしいものだと分かりました。

また、東日本大震災被災地のがれきの山を目の当たりにし、被災していない僕たちは何も分かっていないと知りました。今回自分たちが見たものや感じたことを少しでも伝えて、できることをみんなで実行していきたいです。

全国生徒会サミットで大館の実践を発表する安部さん(左)と細谷さん

全体協議が始まります。グループ協議を基に意見を出し合い、どのように「よりよいまちづくり」をしていくか、考えをまとめていきます。

開会式は、比内総合支所の旧議場で行われ、各校のサミット委員がそろいます。

５つのグループに分かれてのグループ協議。中学生にリードされ、小学生も堂々と意見を述べます。

子どもサミット

子どもサミットは、市内の全小・中学校(小学校18、中学校10)からそれぞれ男女1人ずつ選ばれた56人のサミット委員で構成されています。

5年目となる今年度は、「あいさつ運動は、小・中学校の連携、交流を取り入れながら、今まで以上に広がりや一体感を持っていこう」などとの意見が出され、参加した委員の熱い議論が交わされました。

この話し合いで決まった共通の目標に向かい、市内の小・中学生みんなでアイデアを出しながら取り組んでいくのが子どもサミットです。

サミットは年に2回、また、サミット委員から選ばれた代表で作る運営委員会は年に4回開かれます。

今年度は8月と12月にサミットが開催され「これまでの取り組みの成果と課題は何だろう」「大館をどんなまちにしたいか」「そのためにどんなことに取り組むべきか」などが真剣に話し合われました。

25年度は、大館を「よりよいまち」にするために、24年度までのクリーンアップ、あいさつ運動に加えて、ボランティア活動に取り組むことが決まりました。